

「未来をともに生きるためのSDGs」をテーマに オンライン文化講演会が行われました

野中泰子（国際交流部会）

3月6日(土)に習志野市国際交流協会文化交流部会主催でオンライン文化講演会が行われました。テーマは「未来をともに生きるためのSDGs」、講師は石井雅章さん（神戸外語大学言語メディア教育センター長・准教授）でした。

SDGs(エスディーゼーズ)とは2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」の略称で、2030年を見据えて国連加盟国が取り組んでいる活動です。最近よく耳にするものの、その中身については漠然としていて身近に感じにくかったテーマです。

印象的だったのは、誰も悪い世界を作るつもりはないはずなのに持続不可能な世界になっていること。その現状の打破のためには、世の中の仕組みそのものの形を変えて行かねばならないこと。それを加盟国全体が認識し、国連決議で初めての「全会一致」で採択された経緯があることでした。

またSDGsは、現状を改善しながら2030年という世界になっているか、ではなく、2030年に世界があるべき姿を示し、それが持続可能であることを目標に、今何をするか、という時間設定が特徴です。いかに加盟国が地球の将来に危機を感じているかが

よくわかりました。そして、具体的に持続可能な世界とは何か、その実現のためには歴史上人類が実現したことのない「持続可能な環境・社会・繁栄」と「平和」が何より必要で、人類は知恵を絞らないといけない現実を今回学びました。採択から5年が経過した今、国連、国、自治体、企業などがどのような目標設定の下で活動をして、それをどのように記録し開示しているのか、その努力や成果と同時に注意点を知ることもできました。人類が心身共にゆたかで、地球環境を守りながら繁栄していく世界を目指すために何ができるかのイメージが具体的に変わったように感じました。

石井さんは、SDGsを自分のこととして理解し生活の中に取り込んで行く道筋を示すなど、グラフやイラストもたくさん使って終始わかりやすい説明をしてくださいました。コロナ禍でもこのような興味深い講演会に参加できたことを嬉しく思います。

後半に参加者がグループに分かれて交流する機会があり、そこで老若男女多様な参加者がいるとわかりました。いつか対面で参加者全員が交流しながらSDGsを「自分ごと」として学ぶ機会があることを願っています。

詳しい記事が
NIAホームページから
ご覧になれます

発行

習志野市国際交流協会
千葉県習志野市津田沼

5-12-12

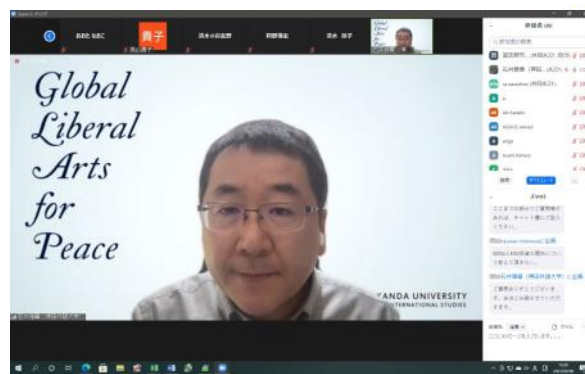
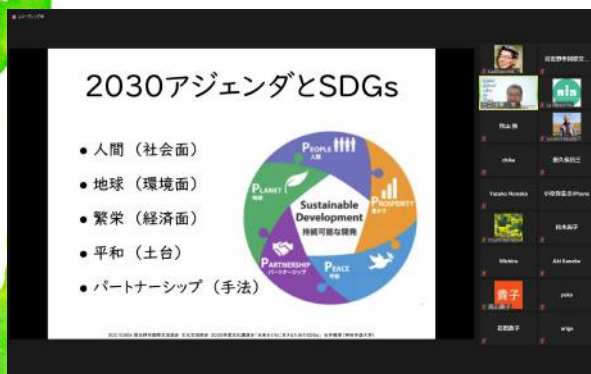
サンロード津田沼6F

〒275-0016

Tel&Fax 047-452-2650

<http://www.nia08.com/>

nia@jcom.zaq.ne.jp



がいこくじんかいいん

せいかつ しえん さ い と しょうかい

外国人会員のみなさんに生活支援サイトを 紹介します

ころなういるす まいにち せいかつ こま

外国人会員のみなさんで、コロナウイルスにより毎日の生活で困っていることがあるかたは、

いか じょうほう

つか

以下の 情報 および支援サイトをぜひ使ってください。

ち ば けん そうだん

○千葉県の相談、支援サイト

外国人相談/千葉県 (chiba.lg.jp)

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kokusai/soudan/gaikokujin/telephone.html>

にゅうこく しゅつこく

○入国と出国についての情報サイト

ばーたる

しゅつにゅうこくざいりゅうかんりちょう

外国人生活支援ポータルサイト | 出入国 在留 管理庁 (moj.go.jp)

<http://www.moj.go.jp/isa/support/portal/index.html>



「zoom」オンライン体験講座を実施しました！

事務局

新型コロナウイルス感染症の脅威が続き、協会事業も中止や延期を余儀なくされている中で、少しでもできることから始めていこうと、会員の皆さんがオンライン会議ツールの「zoom（ズーム）」を学ぶ機会を設けました。予め接続テストをした上で2月19日の本番に臨みました。

「zoomは初めてで全くわからないんです！」という受講生に対し、「皆さん、だからこの講座を受講しているんですよ」と優しく語りかける斎藤雅敏講師。「自分のことはまーさんとかまー先生でいいですよ」と受講生をリラックスさせながら講義を進めていきます。受講生はzoomの機能の説明を聞いて実際に自分で操作してみます。小グループに分かれたり、「画面共有」などにもチャレンジ。よくあるトラブルについてもわかりやすい説明がありました。

また、斎藤講師には講座終了後も30分ほどミーティングルームを開けたまま受講生の疑問や質問にお付き合いいただきました。

今回の成果をボランティアや趣味に生かし、皆さんが活動の場を広げていただければ嬉しいです。

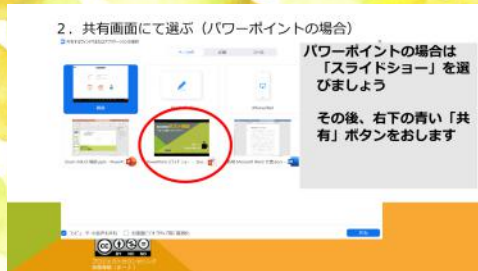
《受講生の感想（アンケートから抜粋）》

○コロナ禍で、日本語教室の対面レッスンが厳しくなり、レッスンをオンラインにしてみたいと考えていたので、本当にタイミングよく本講座を開催していただいて、とても勉強になりました。

○今回の講座聴講でzoomのできることのアウトラインが抽象的ではなく具体的に理解できたので、これをキッカケにこれからさらに勉強を深められればいいと思っている。日本語教室の学習者や学生時代の友人などとzoomで自由にオンライン会話ができれば楽しいと思っている。

○まー先生の講義はとても分かりやすく、講義を聴きながらパソコンの操作ができてよかったです。

○小グループ別のミーティング訓練はよかった。講師によるズームの具体的失敗例の話は参考になった。



国際交流・協力等ネットワーク会議がオンラインで開かれ 近隣団体との情報交換を行いました

原リーあんず（国際交流部会長）

2月25日(木)、千葉県と（公財）ちば国際コンベンションビューロー主催の「令和2年度国際交流・協力等ネットワーク会議」がオンラインで開催されました。

前半に行われた各団体の活動紹介の中で、船橋市国際交流協会による災害時の外国人支援活動が印象的でした。市と協会が資格のある指導者・専門家を中心に役割分担をしながら、サポーターを増やすための訓練を定期的に行うなどして積極的に体制を整えている様子が伺えました。また「市川市生活サポートセンターそら」の在任外国人自立支援活動では、日本語教育のみならず、アイデンティティーに悩む子供のサポートなどをソーシャルワーカーとも活動を共にするなど、現場活動が活発に行われている様

子を知ることができました。

後半の分科会では、NIAは「テーマ1：新型コロナウイルス流行下での団体活動について」と「テーマ2：国際交流協会の活動について」に参加しました。

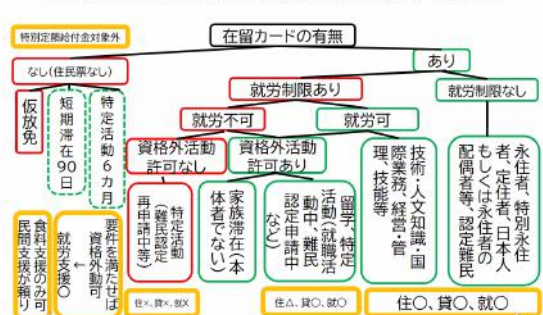
「テーマ1」では、国際的な往来制限に対応したオンライン交流イベント等の事業展開や、感染防止対策を踏まえた取組みとその難しさについて意見が交わされました。NIAは、今年行う予定のバーチャル姉妹都市交流(注)について、時差の問題と、zoomライブイベントについて情報を提供しました。他団体ではバーチャル交流の例はなく、NIAが課題としているSNSでの未成年のプライバシー保護対策について、他団体の状況を聞くことはできませんでした。

「テーマ2」では、やはりコロナ禍における事業実施の工夫や、語学講座実施時の新たな試みなどについて情報交換が行われました。フェイスブックやインスタグラムの活用、YouTubeを利用した動画配信などの事例も目立ちました。NIAは、会員向けのzoom体験講座やオンライン文化講演会の紹介、来年度の語学講座におけるオンラインの試みなどを報告しました。

県内での横のつながりを広げ、他市の状況や先行事例などの情報を共有できた貴重な機会でした。今後は分科会の内容を絞り込むなど、一層の充実を期待しています。

(注)バーチャル姉妹都市交流は、コロナウイルスによる2020年派遣受入事業の中止をきっかけに、学生を中心として、動画やzoom、SNSを使ったバーチャルでの交流を通して新たな絆づくりに挑戦するプロジェクト。

在留資格によって異なる利用可能な制度(2020年末時点)



広報
から

▶メールマガジンに読者登録を

スクウェアの電子版「メール・スクウェア」を配信しています。無料です。配信停止も自由です。配信をご希望の方はPCメールアドレスniasquare@jcom.zaq.ne.jpまで。

▶原稿をお寄せください

イベントや活動の報告、雑感、国際交流の体験など。投稿は事務局またはniasquare@jcom.zaq.ne.jpへ。

▶スクウェア編集部員を募集しています

一緒に広報活動をやってみませんか。経験不問です。